

# U.S. Indicators

## 米国 製造業部門の好調を示す水準に上昇(17年8月 I S M製造業景気指数)

: 2017年9月4日 (月)

～新規受注・生産が高い水準を維持するなか雇用が大幅上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

### I S M製造業景気指数の推移

	総合	新規受注	生産	雇用	在庫	入荷遅延	受注残	仕入価格	輸出受注	輸入
16/08	49.4	48.9	49.3	48.7	49.0	51.2	45.5	53.0	52.5	47.0
16/09	51.7	55.0	53.3	50.0	49.5	50.8	49.5	53.0	52.0	49.0
16/10	52.0	54.1	54.4	51.8	47.5	52.2	45.5	54.5	52.5	52.0
16/11	53.5	54.8	55.6	52.5	49.0	55.5	49.0	54.5	52.0	50.5
16/12	54.5	60.3	59.4	52.8	47.0	53.0	49.0	65.5	56.0	50.5
17/01	56.0	60.4	61.4	56.1	48.5	53.6	49.5	69.0	54.5	50.0
17/02	57.7	65.1	62.9	54.2	51.5	54.8	57.0	68.0	55.0	54.0
17/03	57.2	64.5	57.6	58.9	49.0	55.9	57.5	70.5	59.0	53.5
17/04	54.8	57.5	58.6	52.0	51.0	55.1	57.0	68.5	59.5	55.5
17/05	54.9	59.5	57.1	53.5	51.5	53.1	55.0	60.5	57.5	53.5
17/06	57.8	63.5	62.4	57.2	49.0	57.0	57.0	55.0	59.5	54.0
17/07	56.3	60.4	60.6	55.2	50.0	55.4	55.0	62.0	57.5	56.0
17/08	58.8	60.3	61.0	59.9	55.5	57.1	57.5	62.0	55.5	54.5

(出所) I S M : the Institute for Supply Management

### 製造業景気指数は58.8 と前月比2.5%ポイント 上昇

17年8月のI S M製造業景気指数(季節調整値)は、58.8と前月比+2.5%ポイント上昇し、製造業部門の好調を示す水準となった(市場予想中央値56.5、筆者予想57.0)。I S M製造業景気指数は、ドル高の影響を受けながらも、国内需要の堅調さ、原油価格の上昇による石油掘削リグの稼働数の増加、世界的な需要の拡大等を背景に、米国製造業が拡大ペースを加速していることを示している。

総合指数を構成する項目では、新規受注が前月から小幅低下したが、生産、雇用、在庫、入荷遅延が上昇した。新規受注は、外需の鈍化で低下したものの内需の堅調さを映じて高い水準を維持しており、製造業部門が堅調さを当面維持することを示唆している。また、新規受注、生産が高い水準を維持するなかで雇用に波及し、大幅に上昇した。

構成項目別の総合指数への寄与度をみると、新規受注(前月比▲0.02%p)が小幅の押し下げ寄与となった一方で、在庫(前月比+1.10%p)、雇用(前月比+0.94%p)、入荷遅延(前月比+0.34%p)、生産(前月比+0.08%p)が押し上げ寄与となり、総合指数は前月比2.5%ポイント上昇した。

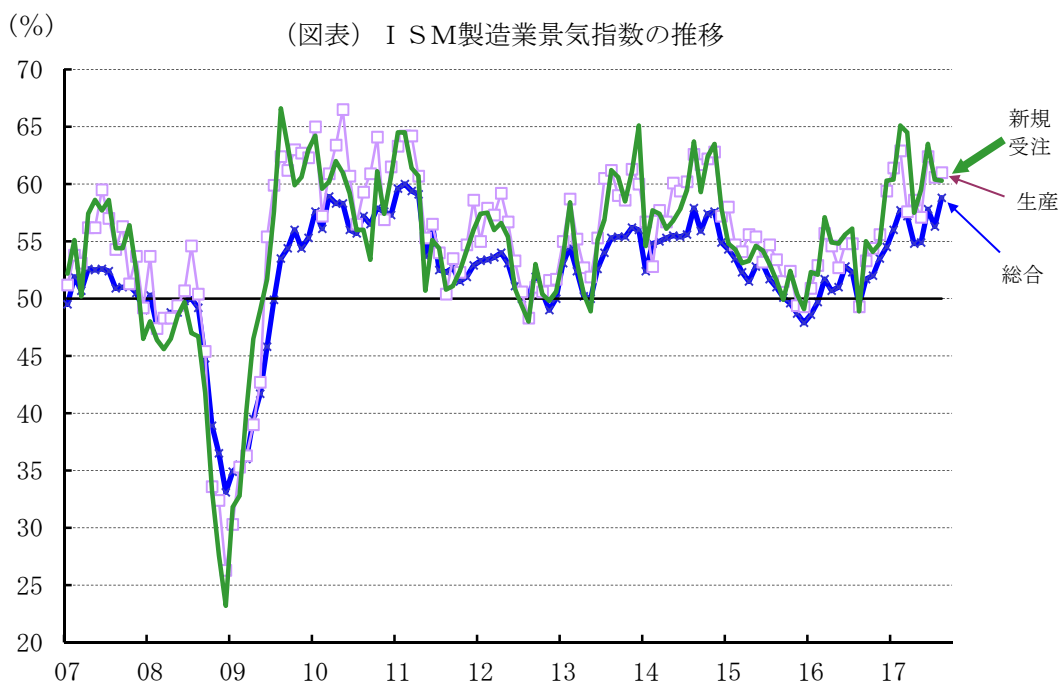
総合(全18業種、下線は拡大・縮小が2カ月以上続いたことを示す)で拡大した業種数は、繊維、石油・石炭、一般機械、輸送機器、加工金属、コンピューター・電子機器、紙製品、電気設備・部品、その他製造業、化学製品、非鉄、プラスチック・ゴム、印刷・関連サポート活動、食品・飲料・タバコの14業種となった。前月の15業種から減少したが、引き続き多くの業種で拡大しており、製造業の拡大が広がりを見せていることを示している。一方、縮小した業種数は、アパレル、一次金属、家具・同関連の3業種と前月と変わらなかった。なお、木材製品は変わらずとなった。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

コンタクト先からの報告は、8月も全般的に前向きな内容が目立った。化学製品では事業全体で需要が堅調と指摘されたほか、一般機械は例年この時期は需要が弱くなる建機の需要が強いままと報告された。また、コンピューター・電子機器は予想通り増加し始めており、全体的に非常に堅調と指摘されたうえ、その他製造業は17年、18年ともに需要全体を楽観視していると報告された。さらに、紙製品では事業が去年の同時期と比較して夏を通じて強くなっていること、繊維では8月の生産が増加したこと、輸送機器では売上が前月比で強いままであること、電気設備・部品では受注量が僅かに増加したこと、食品・飲料・タバコでは受注が非常に強いこと、家具・同関連製品では事業環境が安定し強いこと等が報告された。

**製造業景気指数はドル高の影響等により緩やかな拡大を示す水準で推移する公算**

今後、雇用・所得の拡大等を背景に個人消費を中心とした国内需要の拡大が続くほか、世界経済の拡大が続くとみられる一方で、ドル実効レートが米国景気への楽観的な見方や緩やかなペースでの利上げ継続、米国への資金還流等の影響を受け、製造業が好調だった時と比較して高い水準に止まると予想される。このような中で、ISM製造業景気指数は、製造業の緩やかな拡大を示す水準で推移すると予想される。



(出所) ISMデータより当社加工

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。